



ことばの教室の体制強化を

議会改革ネットワーク ● 植中 みやこ 議員

問 ことばの教室の石部教室には常勤の指導員がいません。中学生活や中学・高校への進学の相談に対応する中学校教員の配置も必要です。通級児童生徒の増加に対応する体制は。

答 県に通級指導加配の配置を要望しています。平成29年4月から市の指導員を1名採用します。

教師の負担軽減策

答 夏休みに業務改善事項を調査しました。2学期から、できるところを取り組んでいきます。

企業内での障がい者虐待と合理的配慮

問 市内に工場のある企業で、滋賀労働局が指導に入るといった虐待事例が発生しました。人権を守る支援は。

答 人権相談窓口を設置している企業もあります。年2回企業を訪問して啓発をし、ハローワークや働き暮ら

し応援センターとも連携しています。社会福祉課にも虐待防止センターを設置して相談体制を整えています。

問 相模原市の福祉施設のような凶悪事件の防止対策として「地域との良好な関係が施設を守る」取り組みについて。

答 市が指定・指導している施設に安全確保の注意喚起をしました。地域に開かれた施設と防犯対策の相反する課題について、国の再発防止検討チームの検討結果を見守っていきます。

ヘルプマーク

答 全国の動向を注視しながら、県に働きかけていきます。

ヘルプマーク：外見では分からない病気や障がいのある人が周囲に配慮の必要を知らせるマーク



地域福祉！支え合うしくみづくりについて

議会改革ネットワーク ● 赤祖父 裕美 議員



問 団塊ジュニア世代が75歳を迎える頃を支える世代は非常に少ないとの推定です。地域で支えるしくみづくりは喫緊の課題です。どのように進めて行きますか。

答 地域が支え合う、助け合う支援体制は必要不可欠です。庁内では、部局を越えた調整を図りながら効率的・効果的な事業の推進に努め、組織強化についても取り組んでいきます。

問 ソーシャルビジネス（社会的企業）を取り入れる考えは。

答 今後の研究課題とします。

問 生活支援コーディネーター配置の考えに



生きがいデイサービス事業

ついて。

答 役割は大変大きいものがあります。高齢者支援センターの役割と重なることから、今後の活動内容は委託先の法人と協議し進めていきます。

問 要支援1・2の受け皿となる事業所職員への周知、研修の声を聞いていますか。

答 今後、おこなっていきます。

手話言語法条例の制定について

答 手話通訳者の養成や県および県内市町の状態を考えながら、検討していきたいと考えています。

学校体育館の使用時間

問 施設使用時間が午後9時までに変更され、時間が短い、申請しづらいとの意見を聞いています。見直す考えは。

答 現行通りでの利用をお願いしたい。